

令和3年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

および

「学校関係者評価報告書」

大阪市立大成小学校

令和4年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもを育てる」ことを学校教育目標とし、中でも「生きる力」をはぐくむ教育活動を推進することを重点課題としている。「めざす子ども像」としては、「自ら考え、判断し、表現する子(知)」「ひとの気持ちを考えて行動する子(徳)」「健康や体力に関心をもち、たくましく生きようとする子(体)」のバランスをとれた子どもの育成をめざしている。

安全・安心の実現においては、子どもたちが「学校が楽しい」と感じて日々過ごしているのが一番大事である。現在の段階では、ほぼすべての学年が90%以上の子どもが「学校が楽しい」と感じているが、この数値が毎年続いていくことが「子どもが安心して成長できる学校」だと考える。

また、子どもたちの自尊感情が高いかどうかも大切である。そこで、児童アンケートの「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目が、常に高いことが望まれる。現在の段階では、高学年になるにしたがって低くなってきているので、全学年が80%以上の子どもが肯定的な回答になるように努めていきたい。

学力・体力健康面の向上については、児童の実態に即して教職員全員で子どもたちの学力・体力向上に取り組んでいる。特に学力面では、平成28年度から国語科を研究の中心に据え、「自ら考え、豊かに表現する力の育成」を研究テーマとし、全学年での研究授業を行っている。しかし、小学校学力経年調査では「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答が4年76%、5年80%、6年80%となっており課題である。今後は、より一層の授業力を高めて児童一人一人が成就感を感じられるように指導を続けていきたい。

また、体力・健康面については、「早寝・早起き・朝ごはん」につけたして、「歯みがき」の推進も行っている。現状としては、「朝ごはん」を食べてくる子どもは多いが、早寝については、高学年になるほど低い。そこで、今後も児童アンケートの項目で、子どもの肯定的な回答が常に80%になるように努めていきたい。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

- 校内児童アンケートの「学校が楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に90%以上になるように努める。
- 学力経年調査・校内調査における「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目について、肯定的な回答の割合を常に80%以上になるように努める。
- 学期に1回の避難訓練をはじめとして、地域と連携して防災教育に年間1回以上取り組むことで、地域の特徴や良さに気づいていく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 校内児童アンケートの「自分の思いや考えを伝えるのが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に70%以上になるように努める。
- 校内児童アンケートの『早寝・早起き、朝ご飯』そして歯みがきを守ってやっている」の項目の肯定的な回答の割合を常に80%以上になるように努める。
- 校内外で実施される授業研究会や実践研修会に参加することで教員の資質向上に取り組む。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- ① 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ② 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。(R2年度 3(新4)年97.1%、4(新5)年100%、5(新)6年81.3%)
- ③ 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(R2年度 0人)
- ④ 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(R2年度 1人)

学校の年度目標

- ① 校内児童アンケートの「学校が楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に90%以上になるように努める。(R2年度 低85%、高94%)
- ② 校内児童アンケートの「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目について、肯定的な回答の割合を常に80%以上になるように努める。(R2年度 低79%、高77%)
- ② 学期に1回の避難訓練をはじめとして、地域や関係諸機関と連携して防災教育に取り組むことで、地域の特徴や良さに気づいていく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- ① 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(R2年度平均標準化得点、3(新4)年106点、4(新5)年106点、5(新6)年99点)
- ② 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の77割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。(R2年度 3(新4)年0.0%、4(新5)年10.3%、5(新6)年8.3%)
- ③ 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。(R2年度 3(新4)年58.6%、4(新5)年51.7%、5(新6)年14.6%)
- ④ 令和3年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(R1年度 85.7%⇒R2年度 75.8%)
- ⑤ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である柔軟性・俊敏性の平均の記録を、前年度より向上させる。(R2年度「長座体前屈」男子33.5cm、女子35.5cm。「反復横とび」男子41.2回、女子37.3回)

学校園の年度目標

- ① 校内児童アンケートの「自分の思いや考えを伝えるのが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に70%以上になるように努める。(R2年度 低81%、高75%)
- ② 校内児童アンケートの「『早寝・早起き、朝ご飯』そして歯みがきを守ってやっている」の項目の肯定的な回答の割合を常に80%以上になるように努める。(R2年度 低79%、高87%)
校外で実施される授業研究会や実践研修会に参加することで教員の資質向上に取り組む。

3 本年度の自己評価結果の総括

学校運営において、この「運営に関する計画」を常に意識して、取り組みを進めてきた。また、項目や取り組みの重点の置き方も適切であったと考える。

今年度、「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現」と、「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」のどちらの最重要目標においても、目標を達成することができた。

また、それぞれの年度目標達成に向けた取り組みにおいても、全ての指標を達成することができた。

今年度のこれらの成果を伸ばし、さらに、課題を改善するために、次年度は、さらに高い目標を設定して、全教職員で、目標達成に向けて取り組みを進めていく。

今年度、創立100周年を終え、次年度は、新たな100年へのスタートとなる。

大阪市立大成小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を<u>95%以上</u>にする。</p> <p>② 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を<u>85%以上</u>にする。(R2年度 3(新4)年97.1%、4(新5)年100%、5(新)6年81.3%)</p> <p>③ 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。(R2年度 0人)</p> <p>④ 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(R2年度 1人)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 校内児童アンケートの「学校が楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に<u>90%以上</u>になるように努める。(R2年度 低85%、高94%)</p> <p>② 校内児童アンケートの「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目について、肯定的な回答の割合を常に<u>80%以上</u>になるように努める。(R2年度 低79%、高77%)</p> <p>③ 学期に1回の避難訓練をはじめとして、地域や関係諸機関と連携して防災教育に取り組むことで、地域の特徴や良さに気づいていく。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① (全市共通目標①) 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いじめのアンケート調査を学期に1回実施するとともに、担任が、日々見取り聞き取りを行う。 <p>指標・いじめのアンケート調査を学期に1回実施する。</p>	A
<p>取組内容② (全市共通目標②) 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の月重点目標を設定し、全児童が意識できる働きかけをする。 <p>指標・毎週1回月曜日の児童朝会で月目標に準じた話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きまりをまもりにくい子どもには、個別指導する。 	B
<p>取組内容③ (全市共通目標③④) 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクリーニング会議Iを月1回行い、校内で子どもの状況を共通理解する。 ・ 子どもサポートネット、子ども相談センター、スクールカウンセラーなどと連携をとる。 <p>指標・スクリーニング会議Iを月1回行う。</p>	A
<p>取組内容④ (学校の年度目標①) 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事・委員会活動など日々の学校生活の中で子ども一人ひとりが活躍できるように企画実行する。 <p>指標・学校行事・委員会活動などについては、子どもたちが活躍できるような場を設定するとともに、次回の取り組みに向けての反省を生かすことができるPDCAサイクルを実施する。</p>	A

<p>取組内容⑤ (学校の年度目標②)【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高め、他者への理解や思いやりを育てていく。 <p>指標・道徳や学級会活動などの時間において、ピアサポートなどの活動を通して児童一人一人が自信を持てるような働きかけを行っていく。</p>	A
<p>取組内容⑥ (学校の年度目標③)【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係諸機関と関連した防災教育の取り組みを実施していく。 <p>指標・地域の防災リーダーや関係諸機関と連携した防災・減災教育を行う。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① いじめアンケートを学期に1度実施し、いじめがあると回答したものについては聞き取りを行い、解消した。 ② 毎週月曜日の児童朝会で月目標を確認し、意識した行動ができるように前向きな声かけを行った。また、学校生活のきまりを意識した行動ができているかを自己評価する取り組みを児童会行事として行った。 学校生活のきまり(教職員内規)を次年度より運用できるように整備した。 ③ スクリーニング会議Ⅰを月に1度行った。児童の情報を共有し、必要に応じて関係機関と連携し、働きかけを行った。 ④ 創立100周年記念式典の学校紹介をはじめ、本の読み聞かせ・クイズなど、各委員会で活躍の場を設定した。児童アンケートの「学校が楽しい」の項目では、肯定的な回答が90パーセント以上と目標を達成した。 ⑤ 学校全体でピア・サポート活動に取り組み、活動を通して自己肯定感を高め、友だちへの理解や思いやりを育んだ。児童アンケートの「自分には、よいところや、自信を持っていることがある」の項目では、肯定的な回答の割合が80%以上と達成した。 ⑥ コロナ禍で制限があったが、火災・地震の避難訓練を実施した。訓練に合わせ、震災について触れるなど、防災・減災教育も行った。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ol style="list-style-type: none"> ① 継続して実施していく。 ② 月目標や学校生活のきまりを意識する機会が少ないため、生活だよりの配布や児童会活動の取り組みを定期的実施し、きまりを意識できる時間を増やしていく。 ③ 家庭状況や学校に対するニーズが多様化し、それを受容しなければならない時勢の中で、単純に不登校児童の数を目標に掲げるのには無理がある。不登校児童のいる家庭にどれくらい関わったか、関係機関との連携をどれだけ迅速に行ったかを指標に変更する。 ④ 新型コロナウイルスの感染状況等を考慮しながら、できる範囲で取り組んでいく。 ⑤ 今年度の取り組みを継続、さらに発展させていく。 ⑥ 新型コロナウイルスの感染状況等を考慮しながら、できる範囲で取り組んでいく。 	

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>① 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。(R2年度平均標準化得点、3(新4)年106点、4(新5)年106点、5(新6)年99点)</p> <p>② 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。(R2年度 3(新4)年0.0%、4(新5)年10.3%、5(新6)年8.3%)</p> <p>③ 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。(R2年度 3(新4)年58.6%、4(新5)年51.7%、5(新6)年14.6%)</p> <p>④ 令和3年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。(R1年度 85.7%⇒R2年度 75.8%)</p> <p>⑤ 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、課題である柔軟性・俊敏性の平均の記録を、前年度より向上させる。(R2年度「長座体前屈」男子33.5cm、女子35.5cm。「反復横とび」男子41.2回、女子37.3回)</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>① 校内児童アンケートの「自分の思いや考えを伝えるのが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を常に70%以上になるように努める。(R2年度 低81%、高75%)</p> <p>② 校内児童アンケートの『早寝・早起き、朝ご飯』そして歯みがきを守ってやっている」の項目の肯定的な回答の割合を常に80%以上になるように努める。(R2年度 低79%、高87%)</p> <p>③ 校内外で実施される授業研究会や実践研修会に参加することで教員の資質向上に取り組む。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①(全市共通目標①②③④)【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科を中心として、言語活動の充実を目指すとともに、計算問題や漢字学習などの反復学習を通して基礎的基本的な学力を高める。また、子どもに学習への興味・関心を持たせるため、体験学習を多く取り入れ、学習意欲を喚起させ成就感を持たせる。 <p>指標・全学年で国語科の研究授業を行い、その後討議会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算小テスト、漢字小テストを繰り返し継続的に実施することで、その学年で習得すべき計算力漢字力を身に付けさせる。 ・各学年、複数回の体験的な学習活動を実施する。 	A

<p>取組内容②（全市共通目標⑤）【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ・準備運動に「体づくり運動」を取り入れるなど進んで子どもの体力向上を図る。</p> <p>指標・体育の授業の開始時にストレッチや体ほぐしなどの「体づくり運動」を年間20回以上取り組む。</p>	B
<p>取組内容③（学校の年度目標①）【施策5 子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取り組み】 ・国語科を中心に、思考力・判断力・表現力を培う。</p> <p>指標・授業の中で自分の思いを書く「話す」「聞く」活動を活性化することで自分の思いや考えを深めていく活動を取り入れていく。</p>	A
<p>取組内容④（学校の年度目標②）【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ・睡眠や朝ご飯をはじめとする健康な生活について指導を充実し、子どもの健やかな成長を図る。</p> <p>指標・保健だよりや委員会活動等を通して、生活習慣、特に手洗いうがいの習慣の啓発を行うとともに、学期に1度、生活リズムに関する強調週間を設けて意識づけと習慣化を図っていく。</p>	B
<p>取組内容⑤（学校の年度目標③）【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】 ・校内外で行われる授業研究会・実技研修会に参加し、実践的指導力を高める。</p> <p>指標・現在の教育課題に関する取り組み（ICT教育、外国人教育、低学年からの英語学習）の研修会に参加し、研鑽に努める。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 継続的に漢字や計算問題に取り組むことで、漢字・計算の力が身についた。</p> <p>② ペアで行うストレッチを実施することはできなかったが、個人でできる体づくりの運動を行うことができた。</p> <p>③ 国語科の学習活動において交流活動の形態や場面を工夫することで「話す」・「聞く」力が向上した。ただし、「聞く」力は「話す」力に比べて若干低い児童がいる。</p> <p>④ 健康チェックや強調週間、保健だよりの活用によって、健康的な生活習慣に対する意識は高まった。</p> <p>⑤ ICT学習ではタブレット端末を使用しての授業の取り組み方の研修があり、その研修を生かして、実際の授業の中で実践できた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 漢字・計算といった基礎学力を継続的に指導していく。</p> <p>② 新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、児童の運動量を保障できる指導法を工夫する。</p> <p>③ タブレット端末を取り入れた交流の場を研究授業で取り入れていく。</p> <p>④ 早寝に対する意義を児童、保護者の両方に啓発していく。</p> <p>⑤ ICT教育、英語教育、人権教育の研修の場を活性化していく。</p>	